森下洋子述「感謝込め舞台から愛を」日本経済新聞 2009 年 10 月 2 日夕刊を読む

感謝込め舞台から愛を
―「日本人だから」軸足は日本にしっかりと
　　他の道を歩もうと思ったことは一度もなく
　　温かい夢を伝え、人々の心の懸け橋に―

１．もう一つ、日本人はものすごくまじめだといわれました。オーバーに何かをやるのではなく、ひとときとして手を抜くことなく静かに、コツコツと積み上げていくからです。こうした点は、他の産業や文化にも通じることですが、日本人として誇りにしていい素晴らしいものだと思います。

２．バレエは完ぺきということがないし、終わりはありません。まだまだできないことがたくさんあります。ですから、全部の意識がバレエに集中している私が今も目指しているのは、「毎日毎日ちゃんとけいこできるようにする」ことです。毎日 5、6 時間はけいこをしていますが、「きょうはこうだったから、あしたはもう少しこうしてみようかな」というように、けいこ場を離れて夜寝るときまで、ずっと考えています。けいこを続ける合間に舞台があるのです。

３．今、うちのバレエ学校では、0 歳児からバレエを習っている子どもがいます。こうした子どもたちにクラシックバレエはどれほど素晴らしいものなのか、どれだけ人間は可能性に満ちているのかを、もっともっと伝えたいと考えています。芸術だからと何かよくできる人だけがクローズアップされればいいというものではないはずです。

４．次の世代をしっかりと育てながら、「バレエを通じて多くの人に幸せを届けたい」という清水(正夫)前理事長と松山樹子先生がはぐくんできた松山バレエ団の伝統を継承し、バレエ団全体で多くの人々に喜んでいただける舞台をつくること、それに見合うように誠実に、まじめに自分自身をさらに磨いていくことが、私たちの使命だと考えています。

５．芸術というのは、人々の心の美しさを引き出し、人間と人間を結びあい、きずなをはぐくむ力があると思います。一歩一歩魂を磨いて、温かい愛や夢、希望、ロマンをお届けする。そして、人々の心と心の懸け橋になり、今の時代や社会の役に立つことができたらと、願いながら踊り続けていきたいと思っています。

［コメント］
　森下洋子さんの芸術家としての真髄、生き方がとてもわかりやすく語られている。とても参考になる連載であった。

― 2009 年 10 月 4 日 林明夫記―